

# 婦人と子ども

大正五年二月一日  
第十六卷 第二號

## 一 幼児教育の第一義

幼児教育の第一義は幼児生活の價值を知ることである。之れは幼児教育に限つたことではない。すべての教育は、其の教育者の價值を知らなければならぬが、幼弱なる幼児は愛護せらるゝことはあつても其價值を無現せられ易いから、幼児教育に於て特に此事をいふ必要がある。

## 二

茲に幼児教育の天才者がありとすれば、その人は幼児生活の價值を感じ得る様な性質に生れて居る人である。茲に幼児教育の眞の意味の大家であるとするれば、その人は誰れよりも正當に又切實に幼児生活の價值を知つて居る人である。或る人が始めて幼児教育に従事して、次第に此の教育の眞の理解が出来て來たと言ひ得るならば、それは其の人が幼児生活の價值を會得し得る様になつた時

である。

## 三

幼児教育に關する凡べての問題は、理論的にも實際的にも、つまり此の第一義から派出するものである。幼児教育者の熱心も、研究も、巧妙も、熟達も、畢竟するに幼児生活の價值を知ることによつて生るゝことである。此の第一義を缺ける幼児教育の熱心も、研究も、巧妙も、熟達も、他の意味に於ては知らず、幼児教育の本義そのものからは極めて意義の稀薄なるものである。

## 四

吾人は幼児生活そのもの、價值に無理解にして幼児教育の必要を説く議論、幼児生活そのもの、價值を知らずして教育法の巧妙を誇る熟達、幼児生活そのもの、價值を知ることとを學ばざる保母教育等に遭遇する時、斯くの如き幼児教育が果して何をなし得るものなるやに就て疑ひなきを得ないのである。